

目次

.....
【1】 --- 教員コラム第 13 弾 第 2 回「アナログとデジタル」

生理学教室 細胞生理学部門 / 樽野 陽幸

.....
【2】 --- 新しい図書 94 冊入りました

.....
【3】 --- 借用中の図書を自分で延長手続きできます

.....
【4】 --- 出前講習会レポ！"乳腺外科医局"

.....
【5】 --- 持ち込みできるドリンクは

.....
【6】 --- Open Access 論文を安全に出版するための注意点

.....
[Book Review] ・ ・ ・ 編集後記にかえて

【1】 --- 教員コラム第 13 弾 第 2 回「アナログとデジタル」

生理学教室 細胞生理学部門 / 樽野 陽幸

.....
趣味は何かと尋ねられたら迷いなく音楽鑑賞と答える。楽器演奏は憧れるだけでめっぽうダメで、もっぱら聴く専門である。中学高校の頃は小遣いは CD 購入につき込み、大学に入ると今度はアルバイトで稼いだお金は全て CD 購入にあてていた。講義が終わればパトロールと称しては安くて良い中古 CD が入荷していないか市内の中古レコード店数軒を自転車で巡り、1、2枚入手しては大学図書館に戻り、ウォークマン（懐かしい！）で買ったばかりの CD を聴きながら勉強をする、という毎日だった。ちなみに図書館でお気に入りの席は 2 階の河原町通に面したカウンタースタイルの机だった。

物心ついた頃から CD の時代だったが、大学に入ってから古い LP レコード（音情報が物理的に刻まれた直径 30cm のポリ塩化ビニルの円盤）も購入するようになり、随分と熱心に集めた。LP はかさばるし早送りもできないし途中でひっくり返さなきゃいけないなど、はっきり言って不便だ。しかし LP に魅了された理由はおそらく音質以上にその儀式性だったろうと思う（なにぶんチープなオーディオだったので音質は云々できなかった）。大好きなレコードをジャケットから丁寧に取り出してターンテーブルに載せて回転させる、レコー

ドの隅にそっと針を落とす。するとパチパチと埃や小傷による小さなノイズがしばらく聴こえた後に音楽が始まる。そうするとレコード一枚一枚、その中の一曲一曲に作り手の息遣いを感じられるような気がする。能動的な作業によって音楽を聴くことが、解釈に深みを与えてくれているのだろう。

今では音楽もストリーミング時代全盛、インターネットを介して好きな音楽を好きな場所で好きなだけ聴くことができ、文字通り音楽が溢れる社会である。あらゆる人が常に最新にアップデートされ続ける数千万曲というコレクションを共有している。毎朝スマホに新譜リリースの知らせがあり、その場で聴けてしまう。気になるアーティストが見つければ、過去の作品が“直ちに”“全て”聴ける（例えばボブ・ディランは35もスタジオアルバムがある！）。私も複数の音楽ストリーミングサービスに契約して便利に利用しているが、良くも悪くも得られる音楽体験はそれまでと大きく変わった。便利さの陰で個々の作品への執心が薄れたように感じるのである。実際、ストリーミングのシェアが拡大すると同時に、ここ数年はLPレコードの売り上げが伸びているという逆説的な現象がある。デジタルとアナログで得られる両方の異なる音楽体験をリスナーが求めていることの証左ではないだろうか。

活字についても似たような部分が多分にあると思う。ニュースなどの情報はデジタル配信サービスを活用するが、お気に入りの小説はやはり本を買いたい。研究に関する最新情報も現在ではほぼ100%がインターネットを介して得られる。大量のアップデートされた情報をスピーディーに入手し活用していかなければ研究の世界では生き残れない。一方で、静かな図書館で膨大な本（知識）に囲まれて自分の無知を痛感し、しかし少しでも吸収しようと一冊の本を手取る時のロマンに満ちた挑戦はデジタルでは得難いように思う。様々な活字がデジタル化していく中で、図書館の役割も大きな変革が求められていることと思う。この文章を書きながら、新しいテクノロジーを取り入れることは最先端を走り続けるのに必須で推進されるべきと思う一方、古いテクノロジーを懐古主義でなくどう活用することが学生や教職員、ひいては本学の将来にとって有益だろうかと考えたが、答えはつかむことはできずにまだ風に吹かれたままである。

※過去の教員コラムは、[こちら](#)です

【2】 --- 新しい図書 94 冊入りました

.....

本館への新着図書のご案内です。

「標準」シリーズ

「系統看護学講座」の最新版

「Harrison's principles of internal medicine」第20版

「病が見える 婦人科・乳腺外科」第4版

「病が見える 産科」第4版など、

待望の新刊やおなじみのシリーズを受入れ手配済み、2階閲覧室に配架しています。ただいま夏休み貸出期間延長中。9/11(水)まで5冊借りることができます。

【3】 --- 借用中の図書を自分で延長手続きできます

.....

Q.図書館から借りている『考える技術』が返却期日までに読みきれない。

もうちょっと借りていたいなあ。

A.返却期限日までに更新手続きを行うと、貸出期限を延長することができます。

手続き方法は2通り。

◆[マイライブラリ](#)を利用

◆カウンターに持参

通常は手続き日から2週間貸出延長されますが、現在本館図書は夏休み長期貸出実施中！8/27(火)までは返却期限が9/11(水)まで延長されます。

延長は1回のみ。対象は以下の図書です。

◇返却期日を過ぎていないもの

◇他の利用者から予約がかけられていないもの

[おまけ]

マイライブラリは、利用証をお持ちの方に5つのサービスを提供します。

- ①ご自分の貸出・予約状況の確認
- ②借用中の資料の延長手続き
- ③他の利用者が借りている貸出中資料の予約
- ④図書の購入リクエスト
- ⑤学外から文献の取寄せ申込みと取寄せ状況の確認

マイライブラリ利用には、図書館利用証IDとパスワードが必要です。

[新規申込フォーム](#)から申請いただくと、図書館からパスワードを返信します。

【4】 --- 出前講習会レポ” 乳腺外科医局”

去る 7 月 10 日(水)、医局への出前講習会を実施しました。

図書館で提供しているデータベースや文献入手方法、シボレス認証にて学外からアクセスする方法など基本的な紹介と、教室で研究しているテーマをキーに、求める論文を手に入れるための「医中誌 Web」「PubMed」の使い方を講習。皆さん熱心に耳を傾けていただきながらのランチタイムでした。

図書館ではご希望に応じて講習会の出前を行います。ご希望の方は「データベース講習会に関する書式」にご記入の上、ひと月前までに図書館までお申込ください。これまで図書館が実施した講義・研修はホームページに掲載しています。

【5】 ---持ち込みできるドリンクは

熱中症対策に小まめな水分補給が呼びかけられています。図書館でも館内へドリンクの持込みが可能です。

<OK> 蓋つきで倒れてもこぼれない飲料

→ ペットボトル、水筒、蓋付きタンブラー等

<NG> 倒れるとこぼれるおそれのある飲料と食べ物

→ 缶コーヒー、紙パック、プラスチックカップ等

※ 情報検索室では飲食全般を禁止しています。

図書館ロビーは飲食可能です。

体調管理のため、適宜、図書館⇄ロビーを使い分けて御利用ください。

【6】 --- Open Access 論文を安全に出版するための注意点

近年、著者・研究者から出版プロセスに伴うコミュニケーションの際に、不正にお金を得ようとする詐欺行為が数多く報告されています。報告されている事例では、論文がアクセプ

トされた案内の直後に、著者宛に電子メールの形式でジャーナルの編集局であると名乗り、実際には未だ正式な OpenAccess 論文出版費用の請求の前に巧妙に著者・研究者に料金を支払うように求めてきます。

[Elsevier Connect](#) の記事ではこのような詐欺行為にだまされないためのいくつかのポイントが紹介されています。

[Book Review]

丸山正樹 『龍の耳を君に』（東京創元社 2018）

以前にブックレビューで紹介したことがある『デフ・ヴォイス』の続編である。

”デフ・ヴォイス”はろう者の声、手話のことを表している。前作が面白く、続編を期待していたが、2作目も面白かった。

ろう者が起こした犯罪で法廷の手話通訳を続けている中、恋人の娘の頼みで、話せない同級生の少年に手話を教えることになった主人公。手話で交流を深めていくうちに少年は選択性緘黙症と気づく。ある日、少年は殺人事件を目撃したと話し始めた。果たして緘黙症を持つ少年の証言は有効なのか？

本作も家族との繋がりを描いており、前作同様、話が二転三転するミステリーで、読者を飽きさせない。

前回はろう者にスポットをあてたが今回は発達障害に当てている。この障害に手話が役立つことに(本当なのかは分からないが)話せないのだから手話だよな、と目からうろこだった。(M.H) (京都府立図書館所蔵 K-Libnet で貸出が可能です。)

KPUM Library Booklog : <http://booklog.jp/users/kpumlib>

この本のページ : <https://booklog.jp/item/1/4488027814>

※「K-Libnet」は2018年4月から始まった京都府内公共図書館等との相互貸借サービスです。詳しくは[こちら](#)をどうぞ

図書館メール News 第394号 2019.8.16 発行 (隔週金曜日発行)

編集・発行 : 京都府立医科大学附属図書館

library@koto.kpu-m.ac.jp

<http://www.kpu-m.ac.jp/k/library/>

.....
(図書館メール News のバックナンバーはこちらから↓)

<http://www.kpu-m.ac.jp/k/library/webservice/mailnews.html>